

# 一般社団法人ワンウェルフェア 設立記念講演会・シンポジウム

テーマ「動物の問題は人への支援が必要だった！」  
～職種を越えた連携と地域の支えあいを考えよう～  
2021年7月11日（日）14：00～16：00  
ZOOMミーティング

- ・本日はご参加いただきありがとうございます  
時間になるまでお待ちください

1

## 参加にあたっての留意事項

- \* 講義内容や資料の転用はご遠慮ください
- \* ミーティングの内容については記録及びyoutube配信目的で録画しています
- \* 休憩時間はありませんので各自ミュート・画面オフにして随時おとりください
- \* 個人での画面の撮影などはご遠慮ください
- \* 参加者の皆様はマイクをミュートに設定お願いいたします
- \* 本日の内容は、動物虐待の通報を妨げるものではありません
- \* シンポジウムでは皆様からの質問をお受けいたします。随時チャットにご記入をお願いいたします

2

## 本日の予定

- 14:00～14:30開会挨拶・基調講演
- 14:30～15:55シンポジウム
- 15:55～16:00閉会挨拶

3

## 開会挨拶

- 設立目的
- 今まで任意団体として活動していた「ワン・ウェルフェアの会」は、人と動物の問題について調査研究などを進めてきました。このたび2021年2月22日に「一般社団法人ワンウェルフェア」として法人を設立しましたので記念講演及びシンポジウムを開催いたします。
- 法人の目的は「人と動物の幸せを実現するために、両者が関わる問題から課題を調査・研究し、未然予防や再発防止の取り組みをすること。」
- 3月には環境省より「人、動物、地域に向き合う多頭飼育対策ガイドライン～社会福祉と動物愛護管理の多機関連携に向けて～」が発表されました。このことから、今後、動物愛護分野と福祉分野の連携はますます重要となっていきます。連携とはどのように進めていくのかなどについても触れていきたいと考えております。
- 会員募集及び寄付募集も行っています。関心のある方はお問い合わせください

4

# 動物の問題は 人への支援が必要だった！ ～ワンウェルフェアの歩み～

一般社団法人ワンウェルフェア

代表理事 渡辺和弘

NPO法人地域福祉推進事業団代表理事

(公社) 東京社会福祉士会独立型委員会委員長

社会福祉士・精神保健福祉士・主任介護支援専門員

5

## 自己紹介

PSW、MSW、ケアマネジャー、社会福祉士、成年後見人

およそ10年間のケアマネジャー経験を振り返ると・・・

「多頭飼育 2件」

「譲渡先探し 2件」

「その他の動物問題 1件」

「ペット不可アパートでの飼育 数件」

当時は必死で高齢者に寄り添って対応したが、高齢者の抱える課題とペットが切り離せない課題という意識は福祉関係者の中ではまだまだ認識が広がっていないものと考えられる。



6

## 今日の予定



- 1.ワンウェルフェアの目的
- 2.それぞれの専門性について
- 3.地域福祉現場の課題
  - (1) 動物問題とその背景
    - ①事例：助けてが言えない人
    - ②事例：福祉制度の狭間となる人
    - ③事例：利用者の入所や逝去で猫の引き取り手を探す
  - (2) ゴミ屋敷問題との共通点
  - (3) まとめ
- 4.早期発見と再発予防のためにできること
  - (1) 人の支援者が動物の問題と捉える背景
  - (2) 動物の支援者が人の問題と捉える背景
  - (3) 人と動物の関係者間の連携ポイント
  - (4) 普及啓発の勉強会
  - (5) 福祉職によるアセスメント（去勢状況、入院時動物対応、逝去時動物対応）
  - (6) 動物福祉職のアセスメントポイント
  - (7) 地域で支える体制づくり
  - (8) つなぎ支援の方法
- 5.今後の課題
- 6.参考資料

7

## 1.ワンウェルフェアの目的

この法人は、人と動物の幸せを実現するために、両者が関わる問題から課題を調査・研究し、未然予防や再発防止の取り組みをすることを目的とする

8

## (一社) ワンウェルフェアとは

多頭飼育崩壊をはじめとした人と動物の問題について

動物愛護職と福祉職が集まって考える会。

ワンウェルフェアは「人と動物の幸せはつながっている」の意味。

多頭飼育崩壊の事例検討、人と動物の問題に関わる

国の動きや法制度等についての情報共有、動物愛護職と

福祉職の同行訪問など。

令和3年2月22日、一般社団法人を立ち上げて、普及啓発  
やネットワーク構築、動物職＋福祉職の訪問活動を始動。



9

きっかけは動物愛護相談センターとの出会い  
「多頭飼育崩壊は動物問題というよりも人間の  
問題」の衝撃

・2016年8月：動物愛護相談センターからの「動物の問題は  
人の問題もある」との情報提供により情報交換がスタート

「多頭飼育崩壊は人間の問題」

重要なことは、

「福祉職が認識し対応。早期発見」→普及啓発、相談・訪  
問活動、情報共有

「未然防止や再発予防」→調査・研究、相談・訪問活動、普  
及啓発



10

## ワンウェルフェア発足へ

・動物問題の実態を知るため、動物愛護ボランティアや保健所の動物担当者との意見交換に発展。

・地域包括支援センター職員などの人の福祉関係者と動物愛護関係者などが「せっかくなのでみんなで集まる機会を持とう」ということになり任意団体として2019年3月に初めての顔合わせを実施。12名の参加からワンウェルフェアの会がスタート！



11

## 2. それぞれの専門性について

- ・動物愛護及び適正飼養の推進（動物愛護推進員）
- ・地域において、住民の立場に立った相談と援助、社会福祉の増進（民生委員）
- ・疾病の予防、衛生の向上など、地域住民の健康の保持増進をはかる（保健所）
- ・身体上もしくは精神上の障害、または環境上の理由により日常生活を営むのに支障がある者の福祉に関する相談、助言、指導、関係者との連携及び調整、その他の援助を行う（社会福祉士）
- ・地域の高齢者の総合相談、権利擁護や地域の支援体制づくり、介護予防の必要な援助などを行い、高齢者の保健医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援する（地域包括支援センター）
- ・個別支援、小地域の生活支援のしくみづくり・地区社協等の基盤づくり、小地域で解決できない課題を解決していくしくみづくりという三つの役割を担い、一定の小地域圏域にアウトリーチして、住民と協働して問題解決に取り組む（地域福祉コーディネーター）

※みな、誰かの幸せを追求する業務

12

## 3.地域福祉現場の課題

### (1) 動物問題とその背景

#### ・事例①「助けてが言えない人」

夫を亡くした70代独居女性。認知症発症。歯がほとんどなく入れ歯も作らず（自身のことに無頓着）

猫<sub>10</sub>匹と犬<sub>1</sub>匹。部屋中に糞尿が散乱し虫も大量発生。不妊去勢手術はせず。多頭飼育崩壊で地域住民に疎まれる

幼少期から父親が厳しく、10代で望まない見合い結婚をした。掃除や料理などの家事ができず夫がやっていた

子どもは関わりを拒否（本人に振り回された過去）話すと屈託がなく人なつこい印象

歩行が不安定になりリハビリ目的で主治医から介護保険申請を勧められ、支援につながったケース

#### ・背景

家族からの孤立、地域からの排除、親の考えの押し付けによるパワレス状態、知的障害や発達障害等で家事ができなかった可能性、認知症による現状認識の困難さ（SOSが出せない）、セルフネグレクト

13

## 3.地域福祉現場の課題

### (1) 動物問題とその背景

#### ・事例②「福祉制度の狭間となる人」

80代の夫婦と亡くなった一人息子の妻（50代後半で健康）と同居する世帯

3階建てで2階が居住スペース。1階倉庫に猫15匹。ネグレクトあり。3階は物置き。普段は2階にも数匹いる。

妻は小児麻痺後遺症や脳梗塞による歩行障害あり。夫は人懐っこい性格で、腰痛はあるが家事を妻に代わり行う

妻の介護保険サービス利用のために支援につながった。

老夫婦と亡くなった息子の妻は部屋も別で、普段の生活も別。猫は息子の妻が好きで増やした。一部去勢済み  
息子が亡くなっても同じ家に住み続けてくれる優しい息子の妻と考えてかわいがっているため口出ししない

息子の妻は週2日のパート以外に働いたことがない。両親が厳しく何でも決めてしまう状況でほとんど話さない人になった様子。年齢的には相談先は社協と保健所のみ。どちらも対応経験に乏しく対応に苦慮。支援は進まず

#### ・背景

息子の妻は親の考えの押し付けによるパワレス状態、親からの愛情不足を猫で埋め合わせようとした可能性、発達障害や精神障害の可能性、老夫婦が息子の妻の生活には関与せず放置（善意から）

14

### 3.地域福祉現場の課題

#### (1) 動物問題とその背景

##### ・事例③「利用者の入所や逝去で猫の引き取り手を探す」

夫を亡くした80代女性。一戸建てに一人暮らし。要介護<sup>1</sup>。隣に住む息子夫婦とは仲が悪い歩行状態悪化と息子夫婦から離れたくてデイサービス利用を希望。支援につながった夫が健在な頃から柴犬を一匹飼う（支援に入った時には老犬）

犬は気性が荒く、本人が散歩に連れ出せなくなってからは激しく吠え、訪れた人を噛むボランティアセンターに相談し、近隣のボランティアが来てくれたが、慣れることはなく噛むことが続き断られる

息子が本人名義の土地を勝手に名義変更したとしてさらに関係悪化。老人ホーム入所希望となる

犬の引き取り手を探す。近所の動物愛護団体に引き取ってもらえたが慣れることはなく不安定に過ごしている

##### ・背景

高齢になってから飼いだした。犬との飼い方・しつけ方に課題があった可能性、飼い主の心身機能の低下、散歩に出られないことなどによる犬のストレス、高齢者虐待

15

### 3.地域福祉現場の課題

#### (2) ゴミ屋敷問題との共通点

##### ・事例

80代後半の女性。50代後半の三男（長年無職）と二人暮らし。要介護<sup>3</sup>。

次男は音信不通。三男が何事も決められないとのことで判断が必要な時は隣県の長男に指示を仰ぐ状況

腰痛や膝痛などがあり、ヘルパー、デイ、ショート、配食、三男による若干の調理等の支援を受けている

家の中は物であふれており足の踏み場もない。三男がゴミ置き場から家電品等を拾ってきてしまう（音から）

三男は、何かに使えるかもしれないと拾ってくるが、結局使えずそのままになってしまう

三男は父から過酷な暴言・暴力を受けてきた。本人は三男に対し「迷惑をかけたからこのままでいいのです」と気にしない様子。本人も長年夫からDVを受けてきた。

##### ・背景

三男に精神障害や発達障害、知的障害等の可能性（父の虐待による影響）

本人にDVを背景とするパワレス状態（うつ傾向、生活意欲の低さ等）

16

## 3.地域福祉現場の課題

### (3) まとめ

- どの事例も、本人の意思や人権が侵害されたことで、パワレスとなった経験を持つ。
- パワレスとなったことで発達や精神状況の課題が発生している。
- 支援には時間がかかるため重要なのは早期発見
- 動物が減ると精神的に不安定になる人もいるのでつなぎ支援が必要
- 動物が減ってもまた増やす人もいるので再発予防も重要

※パワレスとは

暴言、暴力等の権利侵害、差別、偏見、過度な期待など否定的な環境に置かれたことにより主体的に生きる力を奪われてしまった無力な状態

17

## 4.早期発見と再発予防のためにできること

### (1) 人の支援者が動物の問題と捉える背景

- 動物虐待が罪になることを知らない
- 明確な「人の課題」が見えない。
- 動物の問題が解決すれば人の問題が解決すると考えている
- 動物問題の再発があることを知らない
- 動物が財産という認識がない
- 地域包括支援センターは高齢者のみ
- 民生委員は児童と高齢者のみ
- 全年齢対象の地域福祉コーディネーターへの周知は始まったばかり
- 保健師は本人からの申し出がないとなかなか動けない。

18

## 4.早期発見と再発予防のためにできること (2) 動物の支援者が飼い主に抱く感情

- どうしてこんなに動物を苦しめるのか
- 動物を人間から守らなければならない

19

## 4.早期発見と再発予防のためにできること (3) 人と動物の関係者間連携のポイント

- 両者の専門性理解が壁を超える
- 人の福祉職が担当領域であると認識する（普及啓発）
- アセスメント等のアプローチ方法を確立する（保健所、社協、包括等）
- 両者を中心にして地域で協働する体制づくり
- つなぎ支援（動物愛護関係者⇄人の福祉職へ同行訪問の声かけをする）
- アセスメント項目や連携ツール、会議体を開発する

20

## 4.早期発見と再発予防のためにできること (4) 普及啓発の勉強会

人の支援者が動物の問題のみと捉えてしまう問題の解消のため、人と動物の関係者が相互に学び合う場をスタート。

※後ほど説明します

21

## 4.早期発見と再発予防のためにできること (5) 人の福祉職のアセスメントポイント

○人と動物の問題などのリスクをアセスメントする

- 不妊去勢手術の有無の把握と課題、飼い主の意向
- 飼い主が入院した場合の動物対応について 現状と課題、飼い主の意向
- 飼い主が逝去した場合の動物対応について 現状と課題、飼い主の意向
- 動物に気になる状況が見られないか  
(怯えている、異常な鳴き声、汚れ、室温、被毛の異常等)

※リ・アセスメントシートの「住環境」欄の活用

22

## 4.早期発見と再発予防のためにできること (6) 動物関係者のアセスメントポイント

- この人はどのような背景があって動物を苦しめるのか。
- 高齢者であれば認知症の可能性がないか。
- 発達や精神の疾患の可能性がないか。
- パワレスになる経験をしていないか。
- 身体機能の低下により大切にしていることができなくなっていないか。
- 地域で孤立や排除の状態にないか。
- 生活はきちんとできているか。
- 生活環境の大きな変化に苛まれていないか。
- 病院にかかっているか、内服はしっかりできているか。

23

## 4.早期発見と再発予防のためにできること (7) 地域で協働する体制づくり

- 多頭飼育崩壊の発見時に「どうして多頭飼育崩壊になったのか」について誰もがアセスメントできる体制の整備
- 人の福祉職が見つけたら動物愛護関係者と同行訪問
- 動物愛護関係者が見つけたら人の福祉職と同行訪問
- 両関係者が互いに連携できる会議体やツールの開発

24

## 4.早期発見と再発予防のためにできること (8) つなぎ支援の方法

### ①人の福祉職へのつなげ方

#### 1) 動物関係者から本人へ

- ・「～のことで、とても辛い気持ちなのですね」と受け止める
- ・「あなたのことが心配です。今の辛い状況から抜け出すにはどうしたらよいか、福祉の専門家に相談してみませんか」と伝えて連絡先を伝える、もしくは代わりに連絡する。

#### 2) 動物関係者から連絡する際のポイント

- ・「何らかの生きづらさを抱えて苦しんでいる心配な人がいるので同行訪問してほしい」と人の福祉職へ相談する。

25

## 4.早期発見と再発予防のためにできること (8) つなぎ支援の方法

### ②人の福祉職へつなげるルート

1) 飼い主が65歳未満の場合：動物関係者→社協の地域福祉コーディネーター

2) 飼い主が65歳未満で精神不安定①動物関係者→保健センター精神保健係保健師

②動物関係者→社協の地域福祉コーディネーター

3) 飼い主が65歳以上の場合：①動物関係者→地域包括支援センター

②動物関係者→民生委員

4) 飼い主が生活保護受給者の場合：福祉事務所ケースワーカー

26

## 4. 早期発見と再発予防のためにできること (8) つなぎ支援の方法

### ③人の福祉職から動物関係者へつなげるルート

地域福祉コーディネーター、地域包括支援センター、民生委員、保健センター、福祉事務所ケースワーカー



保健所（一部）、動物愛護相談センター、動物愛護推進員、動物愛護団体

27

## 5. 今後の課題

- (1) 地域福祉コーディネーター、地域包括支援センター、保健師、獣医師等への普及啓発
- (2) 事例の研究
- (3) アセスメントや連携のためのツール開発、会議体の設置
- (4) 成功事例の蓄積とモデル地区の検討
- (5) 仕組みの制度化
- (6) 地域包括ケアシステムと地域猫活動の連動
- (7) 動物愛護相談センターへの社会福祉士の配置もしくは業務委託等
- (8) ペットショップでの販売時における飼い主教育（購入時年齢等の考慮含む）
- (9) 子どもへの動物愛護・人権教育の必要性  
（地域で野良猫に餌をあげる人を見かけたら等）

28

## 6. 参考資料 地域猫活動と地域包括ケアシステム

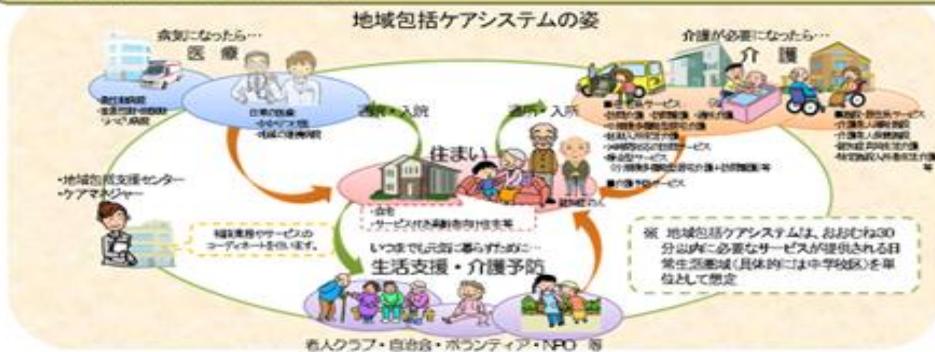
### ・動物関係者と福祉関係者の連携で地域づくり

- ①猫好きな高齢者の孤立防止
- ②同じ目標に向かう地域結束
- ③地域におけるボランティアの開発（担い手不足の解消等）
- ④地域猫活動という集いの場としての社会資源創出
- ⑤住民どうしの顔の見える関係が互助を生む
- ⑥地域のリーダーの発掘と育成

29

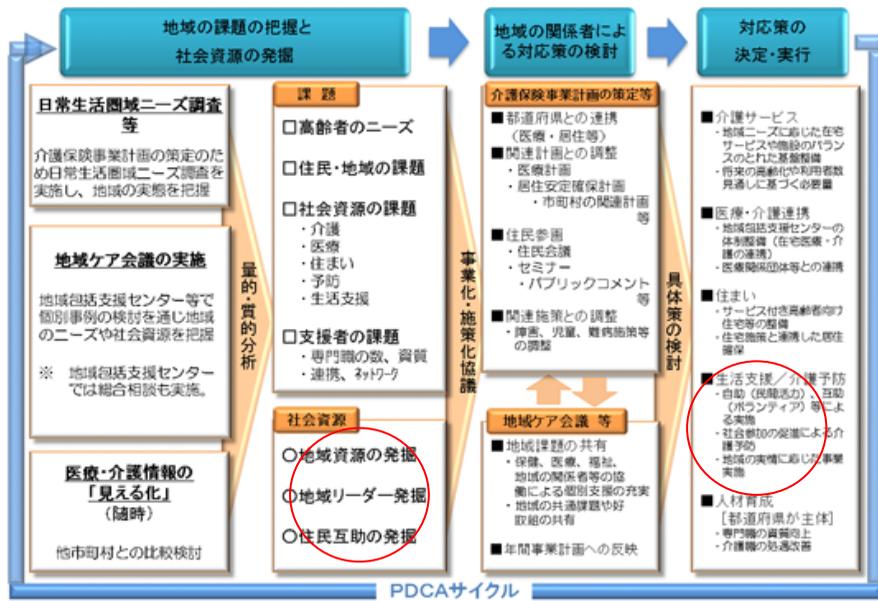
### 地域包括ケアシステム

- 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、**住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築**を実現していきます。
- 今後、認知症高齢者の増加が見込まれることから、認知症高齢者の地域での生活を支えるためにも、地域包括ケアシステムの構築が重要です。
- 人口が横ばいで75歳以上人口が急増する大都市部、75歳以上人口の増加は緩やかだが人口は減少する町村部等、**高齢化の進展状況には大きな地域差が生じています。**  
地域包括ケアシステムは、**保険者である市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき、地域の特性に応じて作り上げていくことが必要です。**



厚労省ホームページより

市町村における地域包括ケアシステム構築のプロセス(概念図)



31

厚労省ホームページより

# 普及啓発

- ・2017年2月以降、社会福祉士会などでは「動物虐待が罪に問われる可能性」の研修を開始
  - ・動物愛護推進員研修では「動物問題の背景には人の問題あり」との研修を開始
  - ・各種職能団体にて多頭飼育崩壊啓発リーフレット配布
  - ・動物行政などから社会福祉協議会などへのプレゼンテーション
- ※ワンウェルフェアでも研究大会やセミナーなどを実施予定

かつしか社会福祉士会 11月定例  
支援関係者に知ってほ  
～猫トラブルと福祉の密

講師 東京都動物愛護推進員

日時 2019年11月21日  
19:00～21:00

会場 金町地区センター 4階 会議室

JR金町駅北口から徒歩3分、京成  
利用無料、事前申込不要、終

32

# 調査・研究

・人と動物の問題研究会（ワンウェルフェア）

1. 2019年3月設立（任意団体）

2. メンバー属性：地域包括支援センター、社会福祉協議会、動物愛護推進員、動物愛護ボランティア、各種行政機関、社会福祉士会員、ケアマネジャー会員、成年後見人など

3. アセスメントシート開発

人間・動物福祉連携シート

4. 実践研究

事例研究、フローチャート作成等

人間に関する情報		動物に関する情報	
氏名	性別	種別	年齢
住所	電話番号	性別	種別
職業	職業	種別	種別
家族構成	家族構成	種別	種別
アレルギー	アレルギー	種別	種別
既往歴	既往歴	種別	種別
服薬	服薬	種別	種別
手術	手術	種別	種別
その他	その他	種別	種別

33

# 実践研究

～人が過度に動物に依存しなければ生きられない社会～

・2019年3月「野良猫と動物虐待について」

・2019年5月「家族全員の飼養能力が低い認知症高齢者の犬について」「高齢夫婦の逝去と犬の引き取り手探し」「独居高齢者逝去後の猫について」「精神疾患の方の多頭猫が近隣に迷惑」「エサやり独居高齢者の孤立と近隣トラブル」「猫の引き上げ後の精神状態悪化と多頭飼い再発」「多頭飼いはためこみ症の異型（DSM-V）」

・2019年7月「入院により、包括職員がエサやりおよび里親探し」「穴から猫が入り出す多頭飼育で近隣トラブル」「ストレングスの活用で介入の円滑化」



34

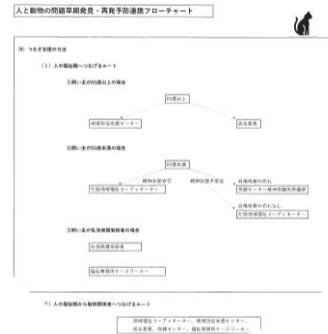
## 実践研究～人が過度に動物に依存しなければ生きられない社会～

・2019年9月「地域猫活動による飼い主のいない猫対策10年間の検証と活動支援の方向性」「セルフネグレクト・壮年夫婦の多頭飼育と地域福祉コーディネーターの活用」

・2019年10月「動物愛護職と人の福祉職の協働アセスメントで発達障害の可能性発見」「動物職・福祉職連携フローチャート」「人間・動物福祉連携シート活用」「評価票の検討」

・2019年12月「社会福祉協議会との協働アセスメント」「福祉職が対応するケースと認識しない」「社会福祉協議会との連携の必要性」

・2020年5月「多頭飼育により自身の生活環境及び近隣関係に課題のある高齢の障がい者」「元々人の福祉職とつながっているケースは解決がスムーズ」



35

## 実践研究～人が過度に動物に依存しなければ生きられない社会～

・2020年6月「ペットの購入時などに必要なこと」「リスクのある層を把握できるよう全戸訪問の活用やチェックポイントシートの作成」「地域住民・町会、保健所、住宅管理業、専門職（包括、CM、CSW等）への啓発、セミナーの必要性」「法人化の必要性」

・2020年7月「法人化事業計画検討」

・2020年8月「動物愛護ボランティアとの同行訪問モデルの検討」

・2020年9月「同行訪問モデル検討」「飼育相談会の実施検討」

・2020年10月「福祉職によるアセスメントと介入による飼い主の変化」

・2020年11月「福祉職介入効果としての信頼感」



36

## 相談・訪問活動 ～その人らしさの発見～

- ・地域の福祉職につながらないケースについて動物団体より相談いただき、福祉職の同行訪問を開始
- ・里親紹介や猫保護の際に飼い主と福祉職が対話できる機会を設定してもらい面談
- ・対話により福祉職によるアセスメントと気持ちの受けとめを実施。
- ・見えてきたものは、「その飼い主のその人らしさ」「障害などの可能性」
- ・発見されたその人らしさは「断れない人」「ひとがいい人」「優しい人」
- ・成果として、今までなかった「ボランティアへの感謝の気持ち」「反省の念」などの表出などの変化をもたらした
- ・そして、訪問支援の継続についての意向を得ることができた



37

## 情報共有～連携を目指して～

- ・多頭飼育崩壊等の発生情報の共有
- ・現在の法律制定情報、法改正、行政施策等
- ・ワンウェルフェア定例会開催
- ・動物がもたらす人への効果
- ・生活困窮者、高齢者、障害者等と動物飼育
- ・動物飼育についてのアプリ開発、ウェブサイト開発
- ・各種専門職・機関からの情報共有



38

# 事業計画

～ワンウェルフェアの今後の展開～

39

## 理念

この法人は、人と動物の幸せを実現するために、両者が関わる問題から課題を調査・研究し、未然予防や再発防止の取り組みをすることを目的とする。

### 価値観

- 人と動物の尊厳の保持
- 互いの背景に思いを寄せる
- 自己責任論で片付けない
- お互いの自由を認めること
- 社会的弱者を支えること



40

## 行動指針

- 多様性尊重とその教育
- 多様な経験の機会づくり
- 人と動物の問題を通して声を掛け合える地域を再生
- いじめや孤立、排除からの解放
- 「苦しみをもつ人」と「つらい状況にある動物」の支援を実践
- 実践の理論化
- 声なき声を拾うこと
- 多様性尊重と地域再生、実践及び理論化のスパイラルを循環
- 関係機関・団体等との連携・協働

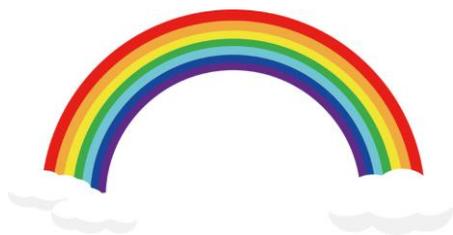


41

## 目標

### 長期目標

- 人と動物の問題が、未然に防止され、再発予防できる仕組みをつくる



### 中期目標

- 1.人が動物の悩みを周りに話せるようになる
- 2.人も動物も地域で認められた存在になる
- 3.どんな状況に置かれている人も権利を活用できるようになる
- 4.人と動物の異変を周囲の人が感じて行動できるようになる
- 5.飼い主と周囲の人の背景から行動変容を試みることができる（実践活動）
- 6.人と動物の問題に関する調査研究
- 7.調査研究結果の発表や提言、普及啓発を実施する
- 8.人と動物の問題におけるネットワークを構築する

42

## 重点施策①

1. 飼い主や地域住民、機関・団体との情報交換会や相談会、セミナー等を実施



3. ①パワレスなどの状態の人を見つけるための情報収集・共有活動

②パワレスなどの状態の人を見つけたときに実践活動で支援する

2. ①飼い主と動物の支援のため、両専門職が連携して実践活動を行う。  
②人と動物の問題についてのセミナー等を各専門職や住民向けに開催する



4. ①人と動物の両専門職と一緒に支援活動を行う。

②パワレス状態などを住民等に未然防止と再発予防を啓発するセミナーの開催

③住民や機関・団体等のネットワークを構築する

④人と動物の問題に関するスーパービジョンの実施

43

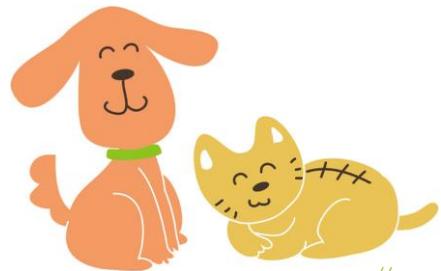
## 重点施策②

5. ①人と動物の専門職が協働して、相談・訪問・アセスメント・課題分析・アプローチなどの実践活動を行う

②動物愛護職が人の異変に気づき福祉職につなぐ仕組みづくり

③同様に福祉職が異変に気づいたら動物愛護職につなぐ仕組みづくり

6. 人と動物の両方の領域をつなげた調査・研究（事例検討、実践研究等）



44

## 重点施策③

7. ①各領域での調査・研究結果の発表と提言、パブリックコメント提出など

②調査研究結果を基にしたセミナー等を開催



8. ①人と動物の専門職と一緒に課題を考える会議等の企画実施や定例会、研修の実施

②同行訪問などを実施するための広報等の実施



45

## 7. 参考文献

- 厚生労働省ホームページ
- 東京都福祉保健財団 東京都高齢者権利擁護センター研修資料
- 環境省ホームページ 動物愛護管理法

46

ご清聴ありがとうございました



## シンポジウム

14:30~14:40 発表1

【テーマ】動物愛護ボランティアと社会福祉

【講師】工藤 久美子 氏

NPO法人ねこだすけ代表理事、東京都動物愛護推進員

14:40~14:50 発表2

【テーマ】ケアマネジャーと動物問題

【講師】岩田 有佳乃 氏

足立区地域包括支援センターあだち・副センター長、  
主任介護支援専門員

足立区介護事業者連絡協議会 居宅介護支援部会 役員  
(地域連携担当)

14:50~15:00 発表3

【テーマ】地域包括支援センターと動物問題

【講師】新美 育子 氏

一般社団法人ワンウェルフェア副代表、  
葛飾区地域包括支援センター・センター長、  
社会福祉士、かつしか社会福祉士会事務局長

15:00~15:10 発表4

【テーマ】地域福祉と動物問題

【講師】稲葉 隆裕 氏

荒川区社会福祉協議会、社会福祉士

15:10~15:35 質疑応答

【ご参加の皆様からの質問を受け付けします】

15:35~15:55 まとめ

【テーマ】職種を越えた連携と地域の支えあい

【コーディネーター】渡辺 和弘 氏

# 動物愛護ボランティア と社会福祉

工藤 久美子  
NPO法人ねこだすけ代表理事  
東京都動物愛護推進員

メモ

# ケアマネジャーと動物問題

足立区地域包括支援センターあだち  
主任介護支援専門員  
岩田 有佳乃

## ケアマネジャーとは

★介護支援専門員＝ケアマネジャー

★介護保険の要支援または要介護の認定を受けた方の中で、  
介護保険のサービスを利用する方の担当をする

★担当するご利用者の相談にのって、介護保険サービスの調整を  
り、生活や療養に関わるサービスの調整を行う 行なった

★地域包括支援センターには主任介護支援専門員が在籍

## 動物を飼う高齢者の特徴と傾向

- 世話好き、頼られたい、役割が欲しい
- 孤独、さみしがり
- 一人暮らし
- 地域から孤立している、地域とのかかわりが薄い
- 動物に対する知識が薄い
- 無趣味
- 部屋が片づけられない、散らかっている

53

## 発生してしまっただけからの関り

- 不適切な飼育、多頭飼育崩壊が起きてしまっている状況からの関りが多い
- 関わっている中で、不適切な飼育や多頭飼育崩壊が発生してしまっている場合がある

54

# ケアマネジャーの気づきが人と動物を救う

## 気づきのポイント

- 飼育している動物の有無、動物の状態  
(猫砂がある、水飲みがある、トイレシートがおいてある...)
- 室内の臭い
- 人がもつ疾患や背景や環境など  
(高齢、精神、障害、ゴミ屋敷...)

55

# 連携の重要性

まずい状況なのかもしれない...と思ったら

- 情報収集→本人、家族、ヘルパー、デイサービスなど

どこと連携するのか

- 地域包括支援センター？（社会福祉士、保健師、主任介護支援専門員）
- 保健センター？
- 行政？
- ボランティア？

56

## まとめ

動物ではない人の部分を見ていく必要がある

- 早期発見
- 早期連携
- 人への支援→動物を飼い始める前に人と動物の支援方法を検討
- 介護と一緒に予防が大切
- 入院・入所、逝去などの理由で飼えなくなった場合の事も事前に話し合っておく
- 関係者での情報共有
- 災害時の避難方法や場所を検討

57

ご清聴ありがとうございました

58

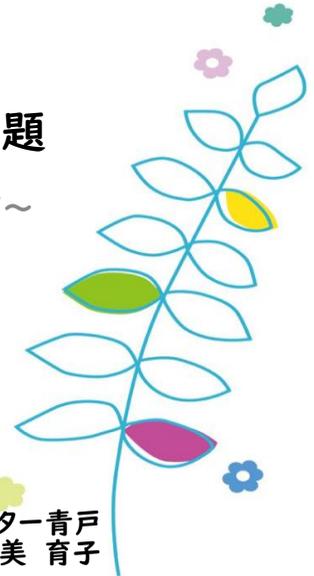


## 地域包括支援センターと動物問題

～あたたかい支援と地域の力を生かして～



葛飾区地域包括支援センター青戸  
社会福祉士 新美 育子



### 地域包括支援センターとは？

- 高齢者のことなら何でも相談にのってくれる相談所
- 平成18年から介護保険法に位置づけられ全市区町村に設置
- エリアごとにある。相談料は無料。訪問もします！
- 保健師・主任ケアマネジャー・社会福祉士の3職種がいる
- 地域のネットワークづくりをすすめる機関





## どんな相談が寄せられているの？



- 介護保険サービスのこと（申請手続き、ケアマネ探し等）
- 認知症のこと（病院の紹介、病気の知識、介護方法等）
- 施設入所のこと（施設の種類、入所申込みの方法等）
- 心身の病気療養の相談、入退院に関わること
- 経済的な問題（医療費等の負担軽減、生活保護等）
- 介護予防のこと（運動や交流ができる場の紹介、生活上の工夫等）
- 高齢者虐待のこと（通報を受けて市区町村と一緒に対応します）
- 成年後見、消費者被害、家族の不仲、近所トラブル、ゴミ屋敷など

61



## 動物に関わる問題

- 入院が必要だがペットがいるため入院を拒否する
- 施設入所あるいは死期が迫っているがペットの引取手がない
- 不衛生な環境で飼育されている（ペットの糞尿の始末がされておらず悪臭がある、エサが腐ったまま放置されている、ゴミ屋敷など）
- 多頭飼育崩壊の問題



62



## 動物問題やゴミ屋敷の背景にあるもの ～セルフ・ネグレクト(自己放任)～

- 「セルフ・ネグレクト」とは

生活維持に必要な行為を行う能力や意欲が低下し、自身の健康や安全が脅かされる状態。放置すると孤独死につながる可能性。

**例)** 受診やサービス利用、他者の関わりを拒否する、十分な食事を摂らない、お風呂に入らない、ゴミ屋敷、多頭飼育崩壊・・・

**原因・背景)** 認知症やうつ病などの精神疾患、大切な人との死別・離別(喪失体験)、いじめや疎外されてきたことによる人間不信、孤立・孤独、経済的困窮、老化、生育歴からくる自己肯定感の低さ・・・

63



## セルフ・ネグレクトの人に対してどう接するか

- 批判する・指摘する・責める×
- 傷ついてきた人たち。逆にあたたかい支援が必要
- まずは信頼関係を築くところから
- 話をよく聴く。悩みや傷ついてきたこと、これまでの人生、様々な思い。
- その人が困っていること、希望していることから支援開始
- 小さな解決の積み重ねが信頼につながっていく
- 遠回りだが動物問題やゴミ屋敷等の解決につながっていく
- ただし、時間はかかります!

64



## 早期発見・予防をめざして

- 地域包括は町会関係者や民生委員等との関係づくりをしている  
会合への参加、機関紙の配布・回覧、地域のお祭りへの参加、相談  
ケースでの連携、無料の講座などを通じて
- 地域で生活しているからこそ異変に気づける
- 地域ので発見して地域包括に  
つないでもらえるようにする
- 孤立を防げるあたたかい地域づくりを



65



## 《参考》もしかしたらあなたも予備群？ セルフ・ネグレクト チェック

- 1) 問題が起きたとき、自分一人で解決しようとする
- 2) 入浴や着替えに無頓着になっている
- 3) 新聞や郵便物をポストに取りに行くことが面倒
- 4) 窓ガラスが汚れていても、半年以上その汚れを放置している
- 5) 強いストレスで睡眠や食事が疎かになっている
- 6) 休みの日も家に閉じこもりがち
- 7) ゴミ箱にゴミを捨てず、どこにでも捨ててしまう
- 8) 部屋ではベッドの上(寝床)を中心に行動している
- 9) 最後に掃除機をかけた日を覚えていない
- 10) 髪を整えたり、身だしなみを整える気が起きない

●3つ以上 ○があった人は、セルフネグレクト予備群かも！

●5つ以上 ○があった人は、すでにセルフネグレクトかも！

(tenki.jpサイトの「知らず知らずのうちに陥ってしまう心の病『セルフネグレクト(自己放任)』」より)

66



ご清聴ありがとうございました



2021.7.11 ワンウェルフェア設立記念シンポジウム

## 地域福祉と動物問題

～地域福祉コーディネーターの事例から～

荒川区社会福祉協議会 稲葉 隆裕

## 地域福祉と地域福祉コーディネーター

### ●地域福祉 …

それぞれの地域で、人々が安心して暮らせるよう、住民自身や公私の社会福祉関係者が協力して地域の福祉課題の解決に取り組む考え方（参照：全国社会福祉協議会HP）

### ●社会福祉協議会 …

- ・社会福祉法に基づき、全国の都道府県・区市町村に設置されている民間非営利の法人
- ・昭和26（1951）年の社会福祉事業法（現：社会福祉法）に基づく地域福祉の推進役
- ・様々な住民組織や関係機関、行政とのネットワークづくりを進めている

### ●地域福祉コーディネーター … 多くの区市町村社協で設置が進む専門職

- ・住民や関係機関と協力し、ネットワークをつくりながら福祉課題の解決を進める調整役
- ・“モノ屋敷”や“ひきこもり”など制度で解決しないことを含む様々な相談が寄せられる

69

## 愛護動物に関する相談事例

～行政の担当ワーカーより～

### ●相談内容 … 飼い主の入院に伴う猫の世話役の調整

※飼い主は猫の「多頭飼育」により近隣で問題視される当事者

### ●対応（目的を人の支援と読み換えて）

- ① ボランティア調整 ～ 地域猫ボランティアの協力
- ② 室内清掃&近隣との調整 ～ 区、包括、清掃局等との連携
- ③ 定期清掃（エサやり含む）の仕組みづくり ～ ケース検討

### ●飼い主の死去に伴い、関係機関は撤退

… 残った猫たちは？ 飼い主の遺志は？

70

## 愛護動物に関する相談事例

～飼い主の遺志への配慮～

- 残された猫への対応

※遺族は持病等のため猫の引取りができない状況

- 解決に向けて

- ① 故人宅の借用延長 ～ 遺族・家主との調整
- ② 屋内猫の保護と里親探し ～ 地域猫ボランティアの協力
- ③ 遠方も含む譲渡 ～ 運転ボラ・車両の調整  
(ボランティアセンター)

- すべての猫の譲渡と経費の精算を終了

71

## 事例から

- 愛護動物の関係する相談には、様々な課題が含まれている

⇒ 誰が解決するか？ もちろん責任は飼い主にあるが…

- 公衆衛生・保健・福祉をはじめ多様な関係機関との連携が必要

⇒ 課題のとらえ方によって、対策の内容や中心の調整役は変わる

- ・高齢者の生活支援 = 高齢者行政・地域包括支援センター
- ・地域福祉の課題 = 社会福祉協議会 など

- 関係者と協働して、対策を柔軟に組み立てていく姿勢が大切

⇒ 行政としても他部署との組織的な連携に向けた体制をつくる

- 早めの連携で問題が深刻化するまえの「予防」を！

72

## 今後に向けて

- 「動物愛護ボランティア」自身もリスクを抱えている
    - ・ 動物問題の駆け込み寺
    - ・ 自宅がシェルター代わり
    - ・ 周囲との軋轢 など
- ⇒ 連携体制をつくることで身を守ることにもつながるはず
- 福祉部局とのパートナーシップ
    - ・ 私たち福祉関係者の合言葉 … 「地域共生」 「地域包括ケア」

ご静聴ありがとうございました

73

## 質疑応答

【ご参加の皆様からの質問を受け付けします】

74

## まとめ

～職種を越えた連携と地域の支えあい～

75

閉会挨拶 事務局長 中村 佳一

- ・ ご挨拶
- ・ 会員及び寄付募集・連続講座のご案内
- ・ 登録のメールアドレスに後日アンケートを送信しますのでご協力ください。

76



## 連続講座のご案内

- 10月より開催
- 実施日：毎月第二土曜日 19：00～20：00 ZOOM開催
- 内容：1.多頭飼育の課題と社会福祉の概要
- 2.生活困窮、障害者福祉について
- 3.高齢者福祉について
- 4.動物愛護について
- 5.再発予防と早期発見、同行訪問、フローチャートについて
- 6.アセスメントシート・連携シート活用、評価について
- 参加費：各回1000円
- 全講座受講の方には修了証を発行
- 申込はこちらから：<https://www.one-welfare.org/>



77



## 会員募集

- 一般社団法人ワンウェルフェアでは一緒に活動する会員を募集しています
- メリット：定例会への参加（事例研究）、情報配信、ボランティア参加等
- 会費：年3000円
- ご希望の方は以下より①氏名②住所③メールアドレス④電話番号⑤所属を記入の上、申してください
- <https://www.one-welfare.org/>



78



## 寄付募集

- 一般社団法人ワンウェルフェアでは寄付を募集しています。主に以下の事業に活用させていただきます。
- 相談事業（特に同行訪問等）
- 普及啓発事業の周知（チラシ作成と配布）
- 各種講座・研修資料作成
- 講師料
- 会場費
- オンライン使用料
- 事務経費
- 相談員人件費
- 交通費
- 保険料
- ほか、事業に関わる経費など
- 申込はこちらから：<https://congrant.com/project/onewelfare/3066>



79

本日はご参加ありがとうございました



80